科目ナンバリング	G-LAS15 80014 SJ37						
授業科目名<英訳>	外国語教育論演習2 Seminar on Foreign Language Education 2			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 中森 誉之		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	複合領域系			使用言語	日本語
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	水1	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（人間・環境学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

「外国語の言語知識と言語技能とは何か」

外国語学習者が修得していく言語知識と言語技能について，言語習得理論の知見に基づいて概観します。教育学的可能性を探りつつ，基本的な知識とともに，言語科学理論に根ざして，幅広い視座と深い見識を身に付けることを目的とします。

[到達目標]

外国語学習者のつまずきの原因を理論的に解明し，その上で学術的な根拠を持つ授業実践にどのように生かしていくのかについて，学校教育臨床研究の立場から多角的に検討していきます。この授業では，英語の言語知識（音声・文字とつづり・語彙・構造・運用）と言語技能（聴解・発話・読解・作文）の学習と指導について系統的に考察し，外国語修得の特徴を理解することを目標とします。

[授業計画と内容]

1. 授業の概要と導入： 英語教育学のスタンス（第1章）
2. 音声と文字の学習と指導（第3章1と2）
3. 構造と意味の学習と指導（第3章3と4）
4. 試験１：音声，文字とつづりの学習指導について
5. 聴解の過程 （第5章）
6. 聴解の学習と指導 （第5章）
7. 発話の過程 （第6章）
8. 発話の学習と指導 （第6章）
9. 試験２：音声能力育成について
10. 読解の過程 （第7章）
11. 読解の学習と指導 （第7章）
12. 作文の過程 （第8章）
13. 作文の学習と指導 （第8章）
14. 試験３：読み書き能力育成について

[履修要件]

特になし

外国語教育論演習2(2)へ続く↓↓↓

外国語教育論演習2(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に実施する数回の論述試験の成績を合計し，１００点満点換算し，次の評価基準で判定します。評価は，知識の定着度と論証能力（説得性・論理性・明解性）に基づきます。試験を受けられなかった場合は，必ず代替課題を提出してください。代替課題の提出がない場合は，欠席分の点数は零点として計算して評定を出します。履修状況を確認することがあるため、受講時には必ず出席管理機を通してください。

[教科書]

中森誉之『英語運用能力の修得―統合型の学習指導と評価』（開拓社）（国の出版物のため上製のため初期投資は高額ですが，来年度のこの時間で，二年間使用します。著者割引は五千円，初回授業時にお声がけください。）
今年度のみの受講者は、
拙著『学びのための英語指導理論―4技能の指導方法とカリキュラム設計の提案』東京　ひつじ書房　2010年
を入手してください。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の熟読。

[その他（オフィスアワー等）]

私は日本の英語教育の理論的基盤を構築する仕事をしています。この授業で取り上げる諸課題に関しては学校教育臨床として極めて重要であり，現職教員向けの講座でも広く知見を還元しています。英語教育関係の進路を志望する方，英語教育を経験・勘・思い付きではなく最新・最先端の学術的な視点から客観的に見つめ直したい方，教材・教具・指導法開発を志す方，塾や家庭教師で英語を教えている方，言語習得論を考究したい方，その他純粋に興味関心がある皆さんの受講を歓迎します。この授業は大学コンソーシアム京都提供科目のため，広く学外からの参加も受け入れます。

この授業では、外国語学習の一例として英語を取り上げますが，自らの問題意識がある外国語に置き換えて考察を進めてください。試験においても，外国語としての日本語や中国語，その他どの外国語について解答してもかまいません。英語に限定するものではありませんので，よろしくお願いいたします。

[主要授業科目（学部・学科名）]